



SPECIAL STEEL

March/2009

すてい~る

目次

●平成21年「賀詞交換会」開催	1
●支部賀詞交換会	6
●新支部長訪問 福原 實晴 南海鋼材(株)代表取締役社長	8
●新理事訪問 齋賀 芳光 扇鋼材(株)代表取締役	9
●理事会・委員会報告	10
●事務局だより	10
●のこぎり演奏家サキタハヂメ氏のニューイヤークンサートに協賛・編集後記	裏表紙



社団法人全日本特殊鋼流通協会

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3丁目2番10号 (鉄鋼会館)
TEL.03-3669-2633・2777 FAX.03-3669-0395
ホームページ <http://www.zentokkyo.or.jp>
E-mail zentoku3@ba2.so-net.ne.jp

(社)全日本特殊鋼流通協会 平成21年『賀詞交換会』開催



先行き不透明な景況感の今だからこそ、積極的な 情報交換、コミュニケーションが図られた賀詞交換会

全特協では、1月23日(金)に東京・市ヶ谷の「グランドヒル市ヶ谷・瑠璃の間」において、平成21年の賀詞交換会を開催いたしました。

冒頭のあいさつで竹内会長は、「今年は『初心に帰る年』。原点に戻って足元を見つめ、固め、次のステップへ飛翔する準備期間を与えられたと考えたい」と現在の経営環境を踏まえて今後の見通しを披露。その上で、研修制度では入門的な初級講座の新設の検討などに触れ、協会事業の柱である人材育成事業をさらに充実させると抱負を述べました。

引き続き、ご来賓を代表して経済産業省製造産業局・石川鉄鋼課長より、「慎重な中にも新しいことを探し、挑戦する年にしてほしい」とご祝辞をちょうだいしました。

例年とほぼ同数の約450名の参会者でにぎわう中、特殊鋼倶楽部の藤原会長のご発声で乾杯。会員企業、および関連団体などからお集まり頂いた皆様の、大きな歓談の場としても、積極的な意見・情報交

換の場としても賑わい、活気あふれる賀詞交換会となりました。



全特協会長 年頭のあいさつ

(社)全日本特殊鋼流通協会 会長 竹内誠二



「初心に帰る年」として、足元を固め、次のステップへの準備を

今年のお正月は、天気も良く穏やかな日が続きました。しかし、私たちを取り巻く環境は、強敵ロシアのバルチック艦隊を破り、未曾有の国難から日本を救った連合艦隊司令長官・東郷平八郎が発した「天気晴朗なれども波高し」の状況で、各社、団体のトップの年頭あいさつを聞いても、皆様必ずアメリカ発の世界同時不況に触れ、金融危機がもたらす経済収縮から大型不況の到来を予測されています。

このような状況下ですから、少しでも明るい話、先行きに期待し、希望が持てるような話題がないかと私なりに模索してありましたところ、昨年末に緊急発刊されました長谷川慶太郎氏の著書「千載一遇のチャンス」が目にとまりました。今回の金融危機では、諸外国に比べ比較的傷口の浅い日本は、世界で一番優位にある国と書かれています。また、昨年暮れには日本の一人当たりのGDPが、2007年では世界で19位、先進7カ国中では最下位と発表されました。

2007年の上位国、アイスランド、スイスなど金融立国が多く、それらの国々は今回の金融危機で相当なダメージを受けております。

今年は、強くなった円と高度な「ものづくり」に裏付けされ、技術力に優れた日本が、国民一人当たりのGDPを世界のトップに押し上げる節目の年になると予見されています。日本の、国際的な地位向上が大いに期待されるところであります。

今回の世界同時不況を称して専門家はあると伝えております。100年に一度あるかないかの大激震であると感じております。100年に一度のピンチなら、努力と工夫とプラス思考で、100年に一度のチャンスに変えていこうではありませんか。

私は、本年を「初心に帰る年」と位置付けております。第二次世界大戦で焼け野原になった日本が、戦後60数年を経て、世界で有数の工業立国、経済大国に名を連ねるまでに国力がついてきたのです。今回の一連の事柄は、太平の世を謳歌していた日本に冷水を浴びせ、忘れていたものを取り戻す良いチャンスであると考えております。そして、原点に戻って足元を見つめ、足元を固め、次なるステップに向けて飛翔する準備期間を与えられたと思っております。

おかげさまで、全日本特殊鋼流通協会は、社団法人を認可されて本年で13年目に入ります。その間、経済産業省鉄鋼課様のご指導を頂きながら、全国の会員様や賛助会員様の心強いご支援とご協力に支えられて今日に至っております。協会の事業活動も年を追うごとに活発になってきており、事業の大きな柱となっております人材育成事業の中で、販売技士、販売加工技士



の研修制度をさらに充実、発展させるために、入門的な初級講座の新設や指導要領の明確化などを実施すべく検討に入っております。また、海外研修の実施や国内での勉強会などにも力を入れて参りたいと考えております。

世の中、不況になると米沢藩の第九代藩主だった上杉鷹山の事が話題になります。17歳の若さで藩主になり、かつて120万石の大藩から関ヶ原の戦いで西軍に加担したことで30万石に減封され、さらに15万石に減らされても6,000人の家臣には手をつけず、藩主自ら一汁一菜の儉約をし、桑や漆の植樹、縮織技術の導入、絹織物などの殖産政策を行って藩財政を立て直した逸話の持ち主です。また、将来を見据えて治山、治水にも力を入れ、子女の教育にも力を注ぎ、現代風に言えばインフラの整備になりますが、乏しい藩財政から捻出して後世に遺産として残した名君と言われる人物です。私は、なんとと言っても鷹山公の偉さは、どんなに苦しくても上級武士や下級武士と農民が身分を超え、心を束ねて藩の再興を目指すトップリーダーとして率先垂範して取り組んだ成果だと思っております。

特殊鋼業界は、過去に何度となく冬の時代に遭遇して、それを見事に乗り切ってきた実績があります。常に最悪の事態を想定して、最善の道を選ぶ心構えが必要ではないでしょうか。

昔から「朝の来ない夜はない」「春は必ずやってくる」と言われています。どうか、特殊鋼業界にとって春の訪れが一日も早く人事を願い、会員会社様の益々のご発展と本日ご出席の皆様のご健勝を心からご祈念申し上げ、新年のあいさつとさせていただきます。



(社)全日本特殊鋼流通協会 賀詞交換会

平成21年1月23日(金) グランドヒル市ヶ谷

ご来賓祝辞

経済産業省製造産業局 鉄鋼課長 石川正樹 様



コミュニケーションを密にし、 慎重の中にも、新しい事を探し、 挑戦する年に

この時期、各団体の賀詞交換会等の会合にお招き頂く機会が多いですが、いずれの集いでも、ご出席の人数が例年に比して1~2割多いように見受けられます。やはり、経済情勢が少し厳しい中で、むしろこうい

う場所にお集まりになられて、積極的に情報交換や意見交換をされようという意欲の表れなのかなと思っております。本日も、大変たくさんの方がお集まりで、私も大変心強い気持ちでございます。

いうまでもなく、経済情勢は非常に厳しいのですが、私といたしましては日本人のある特徴について、少し気になる点があります。最近、「KY」という言葉がありますが、空気を読むということが少し悪い方向につながっているのではないかと思っております。すなわち、景気が悪いという話が始めると、マスコミ報道も含めてこぞってそういう論調に偏ってしまいます。それと違うことを言うと、何となくかっこ悪い、という雰囲気になります。

しかしながら、こういう情勢の中でも、本当に厳しい部分があればそれほどでもない部分、これから少しずつ反転して回復をするという兆しも、これから徐々に出てくるのではないかと思っております。そういう意味では、決してKYという空気を読むことばかりではなく、こうした会合も含めまして、生の“フェイス・トゥ・フェイス”で情報収集をして頂

いて、明るい兆しを早くキャッチをして頂きたいと思っております。経済産業省もそういうことを大事にして、新しい明るい動きがあれば、是非皆様方からお教えいただいて、それを発展していく方向でバックアップさせて頂きたいと思っております。従いまして、私にとってKYとは、むしろ今年には“コミュニケーションを良くする”という意味でのKYが必要だと思っております。

皆様方もご存じの通り、経済対策では補正予算ももうすぐ通ることになりそうで、改めて国内のインフラ整備など本当に必要な公共事業などはやっていく方向で盛りこんでおります。また、中堅・中小企業は3月末になりますと資金繰りの問題もあろうかと思っておりますので、これは特殊鋼流通業界も含めまして、鋼材流通の分野は一番早い段階から中小企業の債務保証や政府系金融機関の緊急融資というものの対象にさせて頂きまして、できる限り資金繰りなどの金融的側面で問題が生じないように取り組みをさせて頂いております。

もちろんそれだけでは不十分でありまして、需要を捉えていく上で各社の日々たゆまぬご努力も必要になってくるかと思っております。そうした意味でも、今年は私どもも今まで以上に業界の皆様方と意見交換を密にさせて頂いて、できるだけ良い政策の効果を上げたいと思っております。

いずれにしましても、本日お集まりの皆様方は、今年は慎重の中にも新しい事を探す、さらに挑戦するという年にして頂いて、来年の賀詞交換会では「昨年はいろいろあったけど、それなりに新しい挑戦もした。去年は去年でいい年だったな」と振り返ることができるとことを、大変強く期待いたしますとともに、そういう取り組みを政府としてもバックアップさせて頂きたいと考えております。



乾杯ご発声

(社)特殊鋼倶楽部 会長 藤原信義 様



厳しい事業環境の中、 流通業界の活力に期待

残念ながら事業環境は真つ暗闇のただ中ということで、その闇もますます深くなっているのではないかと、という感さえあります。

先に、特殊鋼メーカーの会合に出ておりましたが、全メーカーの社長とも、こうした環境だからこそ流通業界各社様の重要性和活力に期待する言葉が多く聞かれました。

そうした経済環境でも、よく耳をすましてみると、早春の兆しのような音が聞こえるようでもあります。かすかではありますが、いろいろなものが動いている気配は感じており、

是非、これが途中で消えることなく、春につながってもらいたい、と感じております。

今年は、是非、その兆しが春につながることを祈念いたしまして、また、ご出席の皆様のご会社にとって良き年であり、皆様ご家族様にも幸多くて実りの多い年でありますように祈念いたしまして、「乾杯!!」。



中締めあいさつ

(社)全日本特殊鋼流通協会 東京支部長 湊 義明



次の時代に向けた 基盤づくりの年に

年初からいろいろなところの賀詞交換会に参加しておりますが、皆様も承知のとおり、「今年は厳しいよ」というご意見が大半です。

そうは申しまして、ここ4~5年の鉄鋼業界および特殊鋼流通業界は、大変恵まれた、ある意味ではいい時代を過ごしてきた

わけで、ここへきて激変というか急変ということですが、いつまでもいいときは続かない、という風に思い定めるしかないわけです。

逆に、こういう時期は各企業の体質改善や体質強化を実行して頂くいい機会です。次の時代へ向けての、基盤づくりの時間です。今年一年は、常に新しい光を見ようという、そうした気持ちでがんばっていきましょう。



各支部でも賀詞交換会

東京支部

開催日時：平成21年1月23日(金) 18:00～
開催場所：グランドヒル市ヶ谷 瑠璃の間
出席者：約450名
内 容：(社)全日本特殊鋼流通協会との合同開催

大阪支部

開催日時：平成21年1月5日(月) 11:00～
開催場所：リーガロイヤルホテル
出席者：約800名
内 容：大阪特殊鋼三団体共催による新年賀詞交換会
特殊鋼・ステンレス業界の大阪3団体共催による新年賀詞交換会は、大阪ステンレス流通協会の森清市理事長(豫洲短板産業(株)会長)が「多くの企業が切磋琢磨し、各企業の個性を伸ばし、お客様に喜ばれるサービス強化、実力を蓄えてさらなる発展の基盤を作っていく時期だ」とあいさつされました。

続いて来賓を代表して近畿経済産業局産業部長・波留静哉様が「世界的に見ても日本はまだ底力を有し、景気回復したときには真っ先に前線に立てる」と太鼓判。次に、大阪府商工労働部商業支援課長・樋口順康様により代読された橋下知事の祝辞では、「大阪の中小企業を取り巻く経営環境に触れながら、中小企業への資金繰りの手当を第一に、緊急経済対策資金の創設、貸付金利の引き下げ、緊急相談窓口の設置などの施策を説明。府財政は厳しいながらも、資金、経営、技術面で中小企業の活動を下支えする体制の充実を図る」と訴えられました。

100年に一度ともいわれる不況の中、かなりの厳しさが予想される1年ながら、気持ちだけは決して負けないぞ、との決意を込め、例年以上に活気あふれる賀詞交換会となりました。



▲森理事長あいさつ



▲波留産業部長が来賓代表あいさつ



▲会場の様子

名古屋支部

開催日時：平成21年1月7日(水) 18:00～
開催場所：名古屋観光ホテル
出席者：約420名
内 容：名古屋地区特殊鋼三団体共催による新年賀詞交換会

今年は、名古屋ステンレス流通協会が担当ということもあり、理事長の中部ステンレス(株)北野社長が主催者あいさつ。「本当に去年から今年にかけて業界にとって悪いニュースばかりで、私も眉間にしわを寄せ励んでおりますが、今日、皆さんの明るい顔を拝見してホッとしているところです。業界としては、この未体験の大きなうねりをくぐり抜けるには製販一体となるのが肝要かと、メーカーさんに方向性を示して頂いて我々流通がお手伝いをする双方向コミュニケーション・相乗効果で邁進しなければなりません…(最後には来賓の中部経済産業局殿に向けて)見通しの明るいニュースが出るといいな」とも。

その言葉を受けて田島課長から来賓あいさつとして「明るい話をとということですので明るい話をしたいのですが、経済産業大臣から必ず一言触れるとのお達しにて一言暗い話を」と会場をジョークで沸かせました。

続いて(社)全日本特殊鋼流通協会名古屋支部のクマガイ特殊鋼(株)熊谷支部長が牛のひずめに触れ「下り坂はゆっくり進む牛歩、来るべき時は一気に飛びあがれるようにする年だ」と訴えて乾杯の発声。今年も例年通り約420名の参加者が不況下もふっ飛ばすかの様に各テーブル共、明るい笑顔が溢れていました。

交換会最後は(社)特殊鋼倶楽部名古屋支部長の愛知製鋼(株)久保常務の中締めで盛大のうちに賀詞交換会を終えました。



▲熊谷支部長による乾杯



▲北野理事長あいさつ

東北支部

開催日時：平成21年1月15日(木) 15:30～

開催場所：仙台国際ホテル

出席者：65名

内容：東北5県にまたがる東北支部は、遠路出席の不便にもかかわらず、参加各位は精力的に出席、チームワークのよさをアピールする活気ある賀詞交換会となりました。

支部長の小林春信テー・ビー・ケー(株)会長は、「本年は想像以上に厳しい年と予想されますが、東北支部では引き続き粛々と各事業を実行してまいります。協会の主幹事業である「特殊鋼販売技士1級」研修を3月より実施いたしますので、多くの受講生を希望します。今年は丑年であり、過去の丑年を振り返ると、1973年は第1次オイルショック、1985年は円高不況、1997年は金融不況、そして今年には100年に一度といわれる世界同時不況に入りました。牛は行動の早いもの、遅い牛もいますが、地域同業経済を乱すような「闘牛」だけでは絶対にならないで下さい。我々流通の財産は市況の安定化にあります。そして、景気の流れを読み、「牛換乗馬」の機を見て敏なる判断が必要でしょう。忍をもってこの不況を乗り切りましょう」とあいさつしました。来賓を代表して越川典弘様(大同特殊鋼(株)工具鋼営業部第二営業室長)と扇原孝志様(日立金属(株)工具鋼統括部営業課長)からご祝辞を頂き、深津和也様(愛知製鋼(株)東京支店第二営業室長)の乾杯のご発声で懇親会へと移りました。



▲小林支部長あいさつ



▲大同特殊鋼(株)越川様祝辞



▲日立金属(株)扇原様祝辞



▲愛知製鋼(株)深津様による乾杯

[写真提供：(株)特殊鋼産業新聞社]

北関東支部

開催日時：平成21年2月15日(日) 15:00～

開催場所：伊香保温泉・ホテル松本楼

出席者：22名

内容：主催者を代表して宮内支部長のあいさつの後、本部から駆けつけた竹内会長があいさつしました。

休憩を挟み市況懇談会へと移り小阪恭範様(大同特殊鋼(株)工具鋼営業部第二営業室主任部員)、山本徹様(日立金属(株)工具鋼統括部営業課長)、加藤建二様(愛知製鋼(株)営業担当)より、各社の現況報告と平成21年度市況展望のご説明を頂きました。



▲宮内支部長あいさつ



▲竹内会長あいさつ



[写真提供：(株)特殊鋼産業新聞社]

静岡支部

開催日時：平成21年1月14日(水) 18:00～

開催場所：静岡グランドホテル中島屋

出席者：24名

内容：永澤副支部長の司会進行で開宴、原支部長のあいさつに続き、来賓を代表して小坂恭範様(大同特殊鋼(株)工具鋼部第二営業室主任部員)、妹尾信夫様(日立金属(株)中部東海支店特殊鋼グループ副部長)からあいさつを頂きました。

続いて、山浦理事の音頭で乾杯。和やかな雰囲気の中、三上理事の中締めで散会しました。



▲原支部長あいさつ



▲小坂様あいさつ



▲妹尾様あいさつ



▲山浦理事による乾杯

九州支部

開催日時：平成21年1月7日(水) 17:30～

開催場所：ANAクラウンプラザホテル福岡

出席者：214名(特殊鋼関係70名)

内容：色川支部長のあいさつ、三菱製鋼(株)・竹田大阪支店長の乾杯で開宴し、最後に福引会を行い盛会のうちに散会しました。



▲色川支部長あいさつ



新・支部長訪問

南海鋼材株式会社 代表取締役社長 福原實晴

業界マナーと秩序のために必要な 会員融和と理解



■販売から製造へと飛躍した専門商社

広島県出身の先代が、1950年に特殊鋼販売の個人商店として創業。

以来、1980年代にかけて大阪を起点に名古屋、広島、福山、浜松など、広域をカバーする販売体制を整えながら主に金型向けの特種鋼を販売する専門商社として成長。現在では、大阪・名古屋・静岡・宇都宮に生産拠点を開設し、販売にとどまらず金型製造の機能を有した製造卸売業へと業種複合化を果たした。金型・治工具・専門機械装置などを扱う“創る商社”として生産・調達の一貫体制を整えた、数少ない会社のひとつとして知られている。

「材料から三次元形状型彫りまで最終製品の製造を内製化しているのが当社の特徴。卸売からみて、川上にあたる製造機能までをカバーすることで、ユーザーとの技術情報や品質精度に関するパートナーシップがより強固になっている」

そう、福原社長が言うように、加工・製造を取り込むことで収益幅が大きくなったことに加え、ユーザーの使用目的に応じた素材や加工方法の提案により、幅広い製品の受注へと対応力が強化されているのが特徴だ。

「生産の一貫体制のなかで、抜けているのが熱処理・表面処理の部分。このラインをいつの日か内製化して、名実ともにフルラインナップの創る商社にすることが目標」

また、熱間鍛造の金型再生の確立など、新しい技術にも取り組んでいる。

「材料資源の有効活用という環境目

的へのアプローチでもあるし、低コスト化への選択のひとつにもなりうるはずだろう」

そう金型再生の意義を語り、技術効率の面や採算性の確保を慎重に検討しているというが、スタンダードなビジネスモデルにとどまるだけでなく、次の一手にも余念がない福原社長だ。

■魅力ある行事で、より多くの人に

全特協を楽しんでもらいたい

現在、全特協では大阪支部長のほか広報委員会委員長も務められる福原社長。

「広報については、全特協の意義を広く知らしめ、多くの人にその活動を理解してもらうということでは、もっとも大切な委員会だと思って引き受けさせていただいています」

魅力ある協会として多くの賛同者を今後も得続けていくためには、魅力ある行事の開催が必須だと福原社長は考える。

「青年部会から上がってきた、のこぎり奏者のサキタハジメさんへの協賛などは、特殊鋼の文化的側面を感じさせ、なおかつエンターテインメントとしても価値のある取り組みで、最近の啓蒙、広報活動ではヒットだと思っている。また、現場サイドが本当に必要としているが、なかなか機会が設けられない玉掛講習会も好評。会員が意義とともに楽しみを感じながら参加してもらえる行事の企画がポイントでしょうね」

魅力ある行事にはどうしてもお金が

かかる。「そこが頭のイタイところなんだけど」という福原社長だが、全特協が法人化されてから早13年。

「竹内会長のいわれるとおり、『入ってよかった全特協』というのがシンプルかつ究極の目的。組織としてあまり上から目線にならず、会員相互の親睦が深まっていけば、自然発生的に業界秩序は保たれると私は考えています」

業界のマナーと秩序が全特協の活動目的のポイントのひとつと感じる福原社長だから、支部ベースでも「意見交換と親睦をベースにより会員同士の輪を広げていきたい」と考えている。

「安定した財政の確保など、いろいろクリアしなければいけない課題も多いが、法人化10年でそれなりの成果をあげてきた全特協が、次の10年でさらに魅力ある団体となるよう、みなさんと知恵を出し合ってがんばっていききたいですね」



南海鋼材本社ビル外観

新・理事訪問

扇鋼材株式会社 代表取締役 齋賀芳光



業界に魅力を感じ、 横へのつながりが広がるように

■高速度鋼の専門商社

大阪・梅田からほど近い福島区海老江に本社をかまえる扇鋼材は、1955(昭和30)年創業の高速度鋼専門の卸売商社だ。

「終戦まで海軍軍人だった父が、『これからは鉄の時代』と興した会社。社名は、神戸育ちの父が神戸港の美称・扇港(せんこう)と、扇の末広がりちなんでつけました」と齋賀社長。

高速度鋼のほかに工具鋼も取り扱い、切断・加工を含めた卸売りの先は、北海道から鹿児島まで全国におよぶ。

「今期より理事に指名されたのも、東京に営業所をもつ大阪の企業オーナーとしての役割を期待されたのかな」と謙遜されるが、内外交流員として海外研修の調査など協会の活動を精力的にこなされている。

■若い人たちが仕事と業界に興味をもってくれるように

大阪支部では副支部長を務める。

「樋口前支部長からはじまったブロック会議で意思の疎通も円滑になり、運営はしやすくなりましたね」

意思の疎通から変わったのが、協会活動への参加のしやすさだと言う。

「代替りがあれば疎遠になりますが、お互いに知っていれば誘いやすく、参加もしやすい。なにか問題があっても、腹を割って話しやすいですね」

経営者だけの会ではなく、社員を含めた業界全体の集いになってきたのも喜ばしい、と言う。

「ボーリングや野球など、できるだけ

若い人たちが集まれる交流会がそう。仕事だけではなく、会社と業界に面白さや興味を感じてもらうきっかけがあるのはいい。業界に魅力を感じ、横のつながりができることで、ヤル気が出て、仕事でもなんでも興味をもってもらえればいいと思います」

■市況、経営環境

「昨秋以降の経済環境の激変で、しばらくは我慢の経営をしつつ、新たな市場開拓に努めなければいけない」

ただ、在庫調整や販売不振ということ以外でも、現在の経済動向を受けて産業構造が一気に変化するのではないか、ということである。

「たとえば、環境対応型の自動車技術が一気に進む可能性があります。極端な話し、エンジンがなくなってしまうかも知れない。そうすると、われわれ特殊鋼の人間にとっては大激変。そうしたことを踏まえた経営や市場開拓が必要です」

オイルショック以降、幾多の危機を乗り越えてきた鉄鋼業界だから自信もあれば楽観もある。

「社員には、自分の会社の強みは何か、を認識して自信と誇りを持つように言っています。数年後を見据えた営業努力とともに、いまだからこそ、いい人材の確保にも努めたい」

■経歴

1950(昭和25)年5月28日神戸生まれの神戸育ち。

「海軍記念日の翌日です。父が海軍出身だったものですから、戦争中の話しをくり返し聞かされました」

中高大と一貫して関西学院で学び、卒業後は他業界に就職。1975(昭和50)年に扇鋼材に入社。

■趣味

ゴルフのほかジムトレーニング、特に水泳が好き。「もう20年ほど続けているので体調や体形の管理はしやすいですね。水泳とサウナの後のビールは格別。摂生のためガマンするよりは、汗をかいて好きなことをすればイイかと」

■読書

長年、新刊が出れば必ず目を通す、出張のときは必ず文庫本を携行するという森村誠一ファン。「文脈などになじんでいますから『コイツが犯人かな』と、作家を推理して楽しんでいます」。

■ことば

気に入ったことばがあると手帳に書きとめておく。最近では「天知る、地知る、我知る、人知る」(後漢書)。

「悪いことをして、自分しか知らないと思っても、天も地も人もぜんぶお見通しだぞ、ということです」。



扇鋼材作業ヤード外観

理事会・委員会報告

第50回運営委員会

- 日時：平成21年1月23日 13:00～15:15
於：グランドヒル市ヶ谷「翡翠の間」
- 内容：1. 平成21年度上期事業計画(案)・予算(案)について
2. 人材育成WGの中間報告について
3. 委員会報告
4. 支部報告
5. その他(第13回定時総会について)

第30回人材育成委員会

併第10回研修制度の内容を検討するワーキンググループ会議

- 日時：平成20年11月27日 15:00～17:30 於：名鉄ニューグランドホテル
- 内容：1. 研修制度の内容を検討するワーキンググループ・中間報告
2. 特殊鋼販売技士入門編教材「くろがね」の説明
3. 平成20年度上期事業・予算進捗状況について

人材育成委員会

第11回研修制度の内容を検討するワーキンググループ会議

- 日時：平成21年2月12日 12:00～15:00 於：安保ホール
- 内容：1. 特殊鋼販売技士「指導要領の記載水準」についての検討
2. 特殊鋼販売加工技士「募集要項の明確化」について

人材育成委員会

特殊鋼販売技士検定試験委員会

- 日時：平成21年1月14日 15:00～17:00 於：鉄鋼会館
- 内容：1. 特殊鋼販売技士1級研修講座の講師事前打合せ
2. 試験問題改善について

人材育成委員会

特殊鋼販売技士検定試験委員会

- 日時：平成21年2月26日 15:00～17:00 於：鉄鋼会館
- 内容：1. 特殊鋼販売技士1級検定試験の問題選定
2. 新規問題案について

第33回調査研究委員会

- 日時：平成21年12月1日 15:00～17:00 於：鉄鋼会館
- 内容：1. 第47回景況アンケートの結果報告(回答率41%にUP)
2. 第48回景況アンケート(10-12月)の設問について
3. 第7回経営環境等に関するアンケート調査について

第34回調査研究委員会

- 日時：平成21年2月24日 12:00～14:00 於：名鉄ニューグランドホテル
- 内容：1. 第7回経営環境等に関するアンケート調査の結果報告
2. 第48回景況アンケートの結果報告(回答率50%にUP)
3. 第49回景況アンケート(1-3月)の設問について
4. 平成21年度事業計画・予算(案)について

第13回経営効率化委員会

- 日時：平成21年2月10日 12:00～14:00 於：大阪鉄鋼会館
- 内容：1. 「玉掛け技能講習会」三支部開催の結果報告
2. 平成21年度事業計画・予算(案)について

第19回広報委員会

- 日時：平成21年3月3日 15:00～17:00 於：名鉄ニューグランドホテル
- 内容：1. 平成21年度事業計画・予算(案)について
2. 「はがねの日」記念切手の応募結果報告
3. 広報誌「すてぃーる37号」の校正・確認

第24回青年部会正副部会長会議

- 日時：平成21年2月4日 15:00～17:00 於：鉄鋼会館
- 内容：1. 第12回運営委員会の実施内容について
2. サキタハジメ氏「のこぎり音楽コンサート」協賛結果報告

第12回経済産業省製造産業局鉄鋼課との連絡会

- 日時：平成21年1月23日 15:30～16:30
於：グランドヒル市ヶ谷「翡翠の間」
- 内容：1. 景況について
2. 中小企業緊急雇用安定助成金について(松瀬課長補佐の説明)

事務局だより

①「法律無料相談窓口」(何でも相談窓口)を気楽にご利用下さい。(経営効率化委員会)

当協会の理事である飯田理事の飯田法律事務所と法律顧問契約を結び、会員の皆様を対象に「法律無料相談窓口」を開設しております。皆様の身近な諸問題についても無料で受けられます。

一般社員の皆様のプライベートな問題も相談可能です。

・飯田法律事務所：Tel 03-3666-3838 (窓口：高橋氏)

・電話でのご相談は無料です。

①全特協「法律無料相談窓口」を利用したい旨をお伝え下さい。

②「全特協の所属支部と会社名」をお伝え下さい。

③相談内容を簡単にまとめてお伝え下さい。

④弁護士の先生と直接具体的な相談を始めてください。

・現在お住まいの地区の弁護士事務所の紹介も可能。

・相談内容は守秘義務があり、いずれにも報告されません。

2 JISハンドブック及び定期刊行物購入斡旋のお知らせ

日本規格協会発行の「JISハンドブック」及び定期刊行物の購入斡旋を継続しております。是非ご利用下さい。お問い合わせは、事務局までお電話下さい。(Tel 03-3669-5803)

3 共通通い箱・鉄網製「おかよちゃん」について。(経営効率化委員会)

市場より安くご提供できますので、是非ご利用下さい。

鉄鋼製(大)10,800円(内寸950×760×348) (中)8,500円(内寸775×460×400) (小)5,300円(内寸770×460×250)

(ご指定倉庫車上渡し、納期:約10日間)

注文用紙は事務局にごございますのでご一報下さい。(Tel 03-3669-2777)

■ のこぎり演奏家サキタハヂメ氏のニューイヤーコンサートに協賛 ～鋼板が発する美しい音色を通じ、特殊鋼文化を啓発～

全特協では、広報活動の一環として特殊鋼文化の普及・啓発に取り組んでいます。

その一環として、昨年11月にフランスとイタリアで計5公演を行った、のこぎり演奏家サキタハヂメ氏のヨーロッパ凱旋公演へ協賛しました。ニューイヤーコンサートと題して行われた1月18日(日)の大阪公演と1月21日(水)の東京公演で、前売りチケット(4000円)計80枚を全特協会員価格(2000円)で購入できるようにし、特殊鋼を素材にした楽器の音色に接する機会を設けました。

のこぎり演奏とは、「ミュージカル・ソウ」と呼ばれる西洋ののこぎりの刃のない部分を、弓でこすり幻想的かつ哀愁をおびた旋律を奏でるものです。サキタ氏は、毎年アメリカで開催される「のこぎり音楽世界大会」で1997年、2004年と優勝。現在はCMや映画の音楽でも活躍中の、のこぎり演奏の第一人者です。

東京、大阪の両会場では、プッチーニやサンサーンスなどクラシック曲や映画音楽などがのこぎりで奏でられ、鋼板が発する音のイメージをいい意味で大きく裏切ってくれる、「天上からの響き」と例えられる美しく幻想的な調べにしばし魅了されました。

大阪公演を観覧した福原実晴大阪支部長は、「サキタ氏には、曲のあい間に3回も全特協の名前を出してもらい、いい宣伝になりました。今後も、こうした文化活動を通じて、全特協を広く一般にアピールする機会を設けていきたい」とコメントしました。



▲大阪会場



▲東京会場

■ 編集後記 ■

本号は各支部の新年賀詞交換会の記事が特集されています。

「富士山」型に好景気を登りつめ、頂上にたどり着いたら「マッターホルン」型の直滑降不況が待っていました。

しかしながら、竹内会長を筆頭に各支部の支部長・ご来賓のご挨拶は力強く、「不況を踏み台に大きなジャンプを!」と励まされ

る言葉ばかりです。

春とともに少し暖かな日差しを感じたいものです。

広報委員会委員長・広報誌発行責任者／福原実晴